

遭逢の家

～工学院大学・法政大学・ものづくり大学・3大学連携プロジェクト～



Concept

現在、福祉施設において人と人の交流が単純化している。老人ホームでは、老人と職員。保育園では、園児と職員。本提案では地域コミュニティに着目し、多世代が入り混じる脱福祉施設を提案する。これは、千葉県佐倉市吉見にある子ども園の園長であり牧師でもある長島先生夫妻が、地元住民の活動の場として古民家を再生し活用したいという思いから生まれた。その思いをカタチにしようと3大学の学生が中心となり、現地調査、実測調査、地域住民とのワークショップを何度も行い何案もの提案から本提案に到達した。工事はものづくり大学の専門家のサポートを受けながら、学生中心のセルフビルドで行う。竣工後も学生が施設の運営やメンテナンスに積極的に関与することにより、学生、地域住民、高齢者、子ども園の園児などの多様な交流が行われる活動の場へと変化していく。

A-A'断面パース

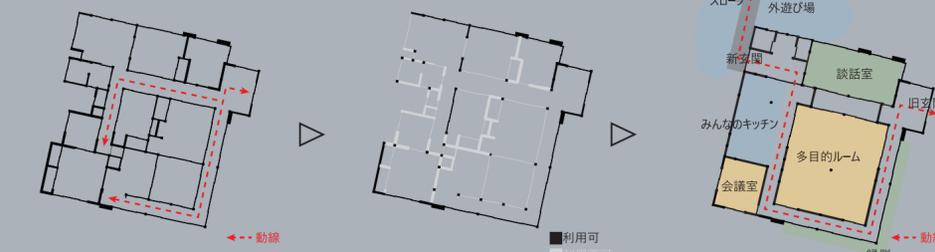
3つの活動の場

この地域には、様々な交流のきっかけがある。雄大な自然、子どもからご老人まで多世代な住人、豊富な田畑や作物、散歩途中での井戸端会議、共通の趣味、礼拝、遊び、..。そうしたきっかけは、地域の人同士の交流を生み、その場で共有することで中を深めていく。そして地域にオープンなコミュニティとなり、多様な場が生まれる。

本提案では、まちに閉じてしまっている古民家を住民の活動の場へとする為に、すでにこの地域にある様々な交流のきっかけである、礼拝、子どもの活動、地域コミュニティの3つの活動に着目した。3つの活動の場を取り入れることで、多様なコミュニティを形成する。



平面計画



1. 既存建築の理解

既存の古民家は元々住宅としての活用されていた為、まちに閉じた空間になっている。

2. 素材の判別

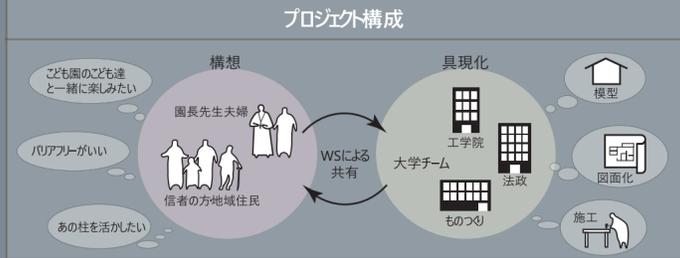
実測調査を行い、利用可能な柱、壁、建具を判断し、既存のものを可能な限り活かした改修を行う。

3. 新たな空間の構築

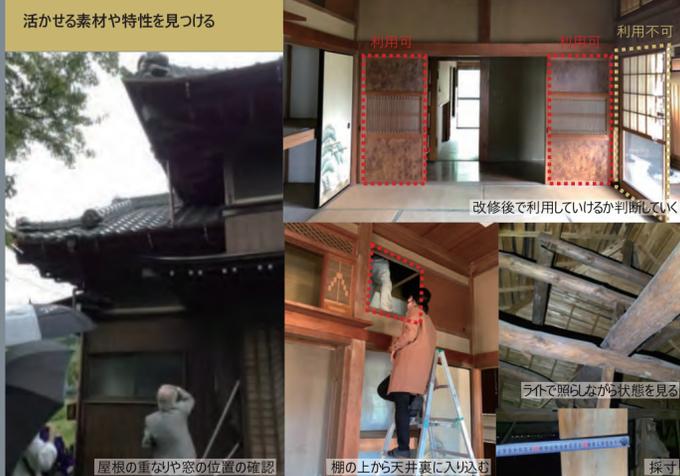
3つの活動の場を挿入し、新たに柱、壁、建具を取り入れ、まちに開いた空間、動線を計画する。

ワークショップスケジュール

- 2020年7月頃 活動開始
- 07/02 事前調査
- 09/13 ワークショップ1 追加調査・調査のまとめと提案
- 10/25 ワークショップ2 3案の提案と議論
- 11/21 ワークショップ3 前回より1案へまとめた提案
- 12/13 ワークショップ4 前提案のブラッシュアップ
- 2021年
- 01/10 ワークショップ5 案の決定と今後の方針
- 02/21 ワークショップ6 工程、見積の確認
- 03/21 ワークショップ7 補助金等の確認①
- 04/25 ワークショップ8 補助金等の確認②
- 05/16 ワークショップ9 契約内容等の確認 セルフビルドのスケジュール確認
- 06/20 ワークショップ10 進捗状況等の確認
- 今後
- セルフビルドの実施
- 2022年8月頃 完成目標
- 定期的なメンテナンスによって交流は続いていく
- 持続的な交流更新され続ける空間活用と地域のつながり
- メンテナンス



1. 実地調査



2. 設計提案



3. セルフビルド

